

令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『「かさまSDGsプラットフォーム」の再起動』

活動団体の活動地域：茨城県笠間市

活動団体名：特定非営利活動法人友部コモンズ

中間支援主体：認定特定非営利活動法人  
セカンドリーグ茨城

# 中間支援主体としての獲得目標と達成状況

## ■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

かさまSDGsプラットフォームマンダラづくりWSを通じて、笠間市の現状を俯瞰できる資料を作成し笠間の現状を共有するとともに、様々な視点を持つ参加者同士を繋げ活動や事業を共創する下地づくりをする。

## ■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

かさまSDGsプラットフォームの再始動からマンダラづくりWSを通して、笠間市の現状を俯瞰できる資料を作成し共有するとともに様々な視点を持つ参加者同士をつなげ、活動や事業を共創する下地づくりをすることを目標としていた。

活動団体の活動に寄り添いサポートするだけでなく、地域循環共生圏をかさまに作るという目標に向かって協働する意識を共有できたとともにかさまSDGsプラットフォームのマンダラWSから胎動を始めたプロジェクトの会合に参加し、中間支援の立場+同じ課題を抱える他地域の人間として意見交換を重ねることにより、チームの一員としてふるまえることができた。

# 中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する				
	意味づける				
	癒しとなる	○	二項対立のような場面で双方の意見から共通点を見出す。場の雰囲気や和むような雰囲気づくり	○	場の雰囲気づくりについては活動団体と作ることができた。 双方の意見から共通点を見出す進め方がうまくできなかった。
	見通しをつける				
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	○	マンダラWSから生まれたプロジェクトについて主体的に場をつくる	▲	実施団体の状況をつかみ、先に進めるような場づくりができなかった。
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる	○	地域外の人やこれまで関わりのない人を対話の場に混ぜる	◎	他地域の実践者としての視点、他分野の視点を活かしたプロジェクトづくりができた
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する				
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する				
	落としどころを探る				
その他	※必要に応じて追加				

# 今後の中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

セカンドリーグ茨城が目指す「協働型・共助型社会」の実現のために地域循環共生圏を目指す地域プラットフォームの概念を取り入れる。

人間が健康で健全な暮らしを継続して行くためには、健康で健全な自然環境は欠かせない。それを持続可能なものにする視点や価値観が経済活動や暮らしに必須と考える。

友部コモンズが目指すプラットフォーム中に子ども子育ての領域を加え、地域の学校や教育機関もステークホルダーに加え、地域循環共生圏の未来がつながるプラットフォームをモデルとし、県内に地域循環共生圏づくりを広げ、各共生圏がネットワーク化することを目指す。そのために3カ年通じて知識やノウハウを共有し、スキーム化に取り組み、中間支援主体として協働して推進していく人材や団体を茨城県内に拡げることを目指す。

## ■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
実施団体の弱い部分をサポートし、将来的には自立できる体制づくりができる	<ul style="list-style-type: none"><li>・実施団体の事務局機能のサポート</li><li>・コミュニケーションの強化</li></ul>	プロセス支援 資源連結
マンダラづくりの手法を普及させ地域住民が、地域の“今”を俯瞰してとらえられる機会をつくる。	課題を抱える地域がすべての課題につながりにあることに気付く仕組みづくり	プロセス支援 問題解決提示

## ■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

同じ課題を抱える地域の情報共有